

AI インクルージョン推進会議

第6回

議事概要

1. 日時

令和元年7月19日（金）16:00～18:00

2. 場所

中央合同庁舎第2号館 10階 総務省1002会議室

3. 出席者

(1) 構成員

北野座長、ビール構成員、梅屋構成員、スィンハ構成員、末松構成員、新居構成員、増島構成員

(2) 総務省

秋本大臣官房総括審議官、赤澤情報流通行政局審議官、石谷情報流通行政局情報流通振興課企画官、富樫情報流通行政局情報流通振興課課長補佐、井上情報通信政策研究所長、山田情報通信政策研究所調査研究部長

(3) オブザーバー

総務省情報流通行政局情報通信政策課、総務省情報流通行政局地域通信振興課、総務省自治行政局地域力創造グループ地域政策課

4. 議事概要

(1) 有識者からの発表

- 年間約 2,000 万人の観光客が訪れるまち（鎌倉市市民生活部 廣川次長兼観光課長）

（概要）鎌倉市には年間 2,000 万人前後の観光客が来訪するが、一部の観光スポットに来訪先が集中するため、住民から苦情が出る等オーバーツーリズムが問題になっている。鎌倉市として来訪先分散化のためのプロモーションや渋滞緩和等に取り組んでいる。パーク&ライドや地域住民の鉄道優先利用等を実施しているが、江ノ島電鉄に乗ること自体が人気の観光体験であること等から更なる対策が必要であり、渋滞緩和のためのロードプライシングを検討している。AI の活用については、自販機のビーコンによる混雑情報を活用した観光客へのリアルタイム案内、カメラ映像の AI を活用した観光客数の推計調査などが考えられる。

【北野座長】

- ・ 日帰り客が多いということだが、宿泊客や富裕者層の割合を増やす等して観光消費を高める考えはあるか。また、周辺地域の自治体と周遊観光地化の取組み等で連携しているか。

【鎌倉市】

- ・ 消費意欲旺盛な高所得者層に来訪して欲しいという考えはある。鎌倉市内には宿泊施設が少ないが、高級ホテル等の宿泊施設が多い横浜市から協力要請があり、連携していきたい。

【スィンハ構成員】

- ・ 横浜市から鎌倉市を訪れる観光客はどの交通手段を使う場合が多いか。
- ・ 外国人観光客は様々な目的で鎌倉市を訪れると思うが、AI を活用した個別の案内が有効ではないだろうか。

【鎌倉市】

- ・ 電車で来訪する観光客が多い。詳細な分析はしていないが、外国人観光客は、本格的な伝統文化の体験プログラムを求める割合が日本人よりも多いという実感がある。

【新居構成員】

- ・ 鎌倉市を訪れる観光客から混雑について苦情はあるか。
- ・ パーク&ライドはオーバーツーリズム対策として効果があるか。

【鎌倉市】

- ・ 江ノ島電鉄を利用したい観光客は日本人にも多く、徒歩 15 分の距離を 2 時間順番待ちして乗車する人々も多いので、オーバーツーリズム対策として

周知を進めているパーク&ライドは現状効果が不十分。江ノ島電鉄は平日でも観光客による利用の増加で混雑している。

【増島構成員】

- ・鎌倉市は観光施策で税収を向上させようとしている一方、地域住民の多くは地元観光とは無縁の会社員が多く、観光客の来訪を好ましく思っていないと推察される。こうした状況下で鎌倉市ではどのような観光政策を打ち出していきたいのか。

【鎌倉市】

- ・鎌倉市の税収の多くは個人住民税で賄っているため、高齢化社会の進展等による今後の人口減を見据えて、消費欲旺盛な観光客の来訪を税収に結びつけたいという思いがある。伝統文化体験型観光のメニュー充実と、地域住民が誇りを持てるような文化施策を両立して、住民が根付く観光まちづくりを進めていきたい。

- 人流データの活用事例について（日本ユニシス株式会社新事業創出部 吉澤 I o T ビジネス P F 推進室長、総合技術研究所 松本氏）

（概要）人流解析サービスは、ビデオカメラと併設する小型コンピュータで人物の動線や属性を検知して、個人情報を含まないデータとしてクラウドに送信する。クラウド上では移動方向ごとの人数カウントや混雑・対流状況等の人の移動データ分析を行う。

島根県松江市で行なった実証実験では、観光アプリや歴史館の人流カメラで収集した観光客の移動データを観光スポット等の地域データと併せて分析し、観光施策の効果測定や改善を試みた。実験の結果、観光客の主要な移動ルートや、観光施設の展示内容と来訪者属性の関係、観光案内資料のレイアウト変更の改善効果等が確認でき、観光施策の改善につながる知見が得られた。

【北野座長】

- ・観光施策としてやりたいことや KPI は何か。

【日本ユニシス】

- ・自治体と接してきた経験から、個別の取組みはいろいろやっているが、その結果が見えていないので、検証や改善が十分にできていないと感じている。

【末松構成員】

- ・実証実験の前、観光施策におけるデータ活用の状況はどのようなものであったか。

【日本ユニシス】

- ・観光客へのアンケート結果や駐車場利用者の本拠等のデータを持っていたようだが、活用しきれていない印象模様。

【スィンハ構成員】

- ・個人情報をクラウドに送信しないとの説明があったが、クラウドで個人情報も扱った方が効率的・効果的な解析が可能ではないか。

【日本ユニシス】

- ・個人情報の取り扱いに関する同意を得られる店舗等でのデータ収集は可能かもしれないが、その他の公共空間でのデータ収集では同意を得られず難しい。

【梅屋構成員】

- ・松江市の実証実験で観光アプリを使ったのは何人程度か。
- ・人流解析サービスでは、画像解析から屋内の動線もわかるのか。

【日本ユニシス】

- ・3週間の実証実験期間中、1,000人弱がアプリを使った。約3割が観光客。
- ・画像解析では、部屋をまたいで屋内の人の動線を追うことはしていない。

【ビール構成員】

- ・松江市では、有名ではないものの観光客が集まる穴場スポットがあるのではないか。

【日本ユニシス】

- ・宍道湖の夕日が有名なので観光協会が推薦しているスポット以外にも穴場はあるかもしれないが、他に観光客が集まるような穴場スポットがあるかはわからない。

○ 地域における観光の課題と人流データ ～MRI が関わった事例を中心に～

(株式会社三菱総合研究所地域創生事業本部地域づくり戦略グループ 宮崎観光立国実現支援チームリーダー)

(概要) 地域における観光の課題としては、年間や曜日でピーク差が大きい需要追従型からの脱却、地域のまとまりづくり、観光事業者の生産性・ステータスの向上等がある。人の移動データの活用方法としては、民泊やその他質の高い宿泊施設の整備、オーバーツーリズム対策や人材確保等にかかわるマーケティングやプロモーションが特に重要である。事例では、富裕層向け旅行市場の調査や、広域観光のマーケティング調査、ナイトタイム観光の市場調査等があり、人の移動や消費行動のデータ分析の結果、観光市場に対するマーケティング、地域のプロモーションやコンテンツ開発、受入環境の整備等の方向性を定めるために有効な知見が得られた。

国内の観光分野でデータ利用が進まない理由としては、施策の実施主体が

他の国や地域の実情を十分把握できていないことや、観光にかかわるデータの要素が多くて記述が困難なこと、利用できるデータの精度が低すぎる事が挙げられる。また外形的に「観光客」と「地元民」が区別できないという課題もある。なお、観光の場合は、消費者市場がどの地域も共通であるため成功事例の知見を他の地域にも横展開できる。事例集等を手掛かりに各地域の観光施策の改善を図っていくことが重要である。

【北野座長】

・ユニークな観光体験を求める富裕層をターゲットにした観光の場合、人の移動データは活用しづらいのではないか。

【三菱総合研究所】

・ガストロノミーリズムのように、希少な観光体験の機会については、交通利便性を度外視して訪れようとする富裕層が少なくないので、GPSのような詳細な人の移動データの活用はあまり有効ではないかもしれない。

【梅屋構成員】

・アリペイなどの海外サービスのように、提供サービスの対価として人の情報を収集する仕組みを日本で活用できる可能性はあるか。

【三菱総合研究所】

・そもそも観光行動は頻度が少な過ぎるため、日常生活と合わせて人の情報を収集するような仕組みが構築されれば利用を検討したい。

【スィンハ構成員】

・人の移動データ分析で大きな誤差が生じるのはどのような場合か。

【三菱総合研究所】

・同じ種類のデータでも、サンプル数が少ない場所では、統計的な誤差が出る場合もある。

(2)意見交換

【新居構成員】

・実証実験とは別の方法で収集したデータを活用する予定はあるか。

【日本ユニシス】

・現状予定はないが、キャッシュレス決済のアプリ等を通じて得た決済データと位置情報を組み合わせた活用は有意義ではないかと考えている。

【北野座長】

・今回の検討会は観光に関する議論が中心であったが、他の分野でも人の移動データを使って地域課題の解決を図る方策に関するアイデアをご教示いただきたい。

【日本ユニシス】

- ・津波の避難シミュレーションと高齢者の日常生活での移動データを組み合わせ、災害時の移動速度を考慮した避難ルート案内や避難計画の改善等が考えられる。

【三菱総合研究所】

- ・災害時の避難民行動予測の他に、MaaSでの利用やガス検針員や介護人材の家庭訪問ルート最適化等に活用されている例がある。
- ・また、地域の居住者の生活圏や移動の実態を把握したまちづくりの可能性も考えられる。

【末松構成員】

- ・自治体の課題はその自治体固有のものと考えられているが、観光分野では対象の観光客は同じであり、成功事例の知見の横展開が可能かつ重要であるとの指摘は興味深い。福岡やニセコ等ベストプラクティスの分析が有効であると思う。

【北野座長】

- ・人の移動データを使って、観光以外の分野でも地域課題の解決を図れないか模索する必要がある。個人の情報を提供する人々へのフィードバックや便益が得られるデータ活用施策を立案することが重要である。

以 上